結果報告 Part2

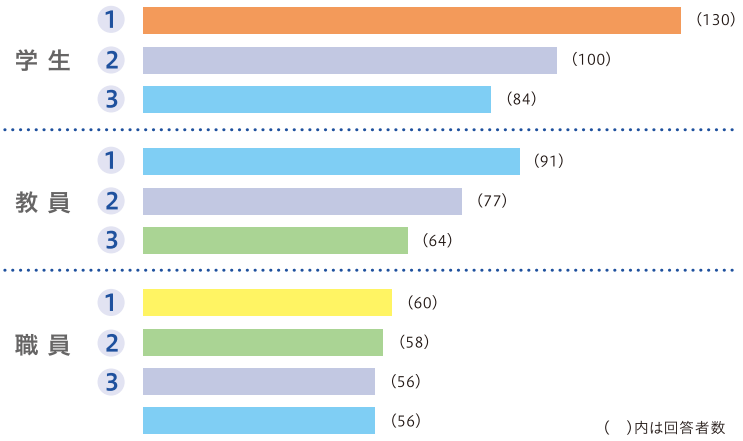
学生対象「獨協大学におけるジェンダーとセクシュアリティの現状に関するアンケート調査」
教職員対象「セクシュアル・マイノリティ学生への対応状況把握のためのアンケート調査」

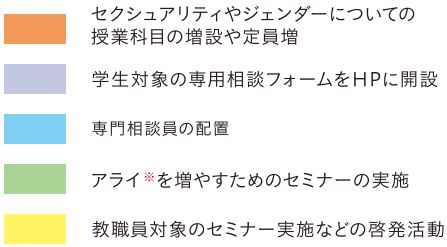
獨協大学ダイバーシティ推進連絡会*が昨年7月、学生および教職員を対象に行ったアンケート結果について、前号に続き第2弾の報告をいたします。

＊ダイバーシティ推進連絡会
副学長を部会長、学生部長を副部会長とし、教務課、学生課、保健センター、入試課、キャリアセンターの職員で構成。入学試験受験から卒業、キャリア支援まで、連携して学生サポートすることを目的とする。

回答者数：学生269人（全学生の3.2%）、教員161人（全教員の26.0%）、職員118人（全職員の41.7%）

■「獨協大学が取り組むべき活動は？」で回答が多かったものベスト3（複数回答可）





※アライally:セクシュアル・マイノリティの理解者のこと

「セクシュアリティやジェンダーについての授業科目の増設や定員増」は、学生回答者の約半数から要望がありました。

■ 学生からの声（日頃感じていること・困っていることなど）の一部

- まだまだ男女二元論に囚われていて、性行為に関しても「必ず皆やること」と思っている人が多いと思います。メディアの表象はもっと多様であるべきですし、セクシュアリティは流動的なものだと、もっと広まってほしいです。
- 私は恋愛感情を持たないので、結婚・恋愛に関する質問をされると正直に答えられず困ります。
- 私自身がアセクシャルです。LGBTへの認識は広がってきていると思いますが、アセクシャルやアロマンティック、ノンバイナリー、デミセクシャル★などの認識はほぼないような気がするので、これらについてのセミナーがあるとよいと思います。
- 男だけど、男らしく生きるのがつらい。男は経済的に裕福でなければならないというプレッシャーを感じる（年収が低い人の既婚率は低いから）。
- 自分の性的指向について他の学生に話したことはないが、もし話したら軽く一蹴され馬鹿にされそうで怖い。
- 近年、ジェンダーに対しての認識は広がっているため、認識のない人はいないと思う。それに対して深く配慮する必要はなく、今まで通りのほうが違和感なく過ごせる。しかし、困っている人へのケアは安心した学生生活を過ごす上で必要であるため、学生が気軽に相談できる環境を望む。

★LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）のほか、以下に該当する人もいます。異性愛や恋愛するのが当たり前、と決めつけないようにしましょう。

【性的指向についての用語】
アセクシャル：他者に性的に惹かれない人
アロマンティック：誰にも恋愛感情をもたない人
デミセクシャル：精神的なつながりを感じる相手に対してだけ性的な欲求を抱く人

【性自認についての用語】
ノンバイナリー：性自認が男性・女性のカテゴリーに当てはまらないと感じている人

「ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブックVer.1」p.5もご参照ください。
学生課（学生センター1階）前で配布しています。

学生のみなさんの声を受け、2024年度から獨協大学の ここ が変わります！

1	**2024年度秋学期、ダイバーシティをテーマとする全学総合講座を開講**	ジェンダーやセクシュアリティに限らず、民族、言語、宗教、障がい、年齢、経済的困窮などによりマイノリティとされた人たちの人権を守ることを、多様性（ダイバーシティ）尊重の観点から、学生や当事者のみなさんと共に考えていきます。 コーディネーターは交流文化学科・高橋雄一郎教授です。
2	**教室棟とコミュニティスクエアの女子トイレにOiTr（オイテル）を18台設置**	OiTrとは、トイレ個室に生理用ナプキンを常備し、無料で提供するサービスです。今回のアンケートでもリクエストがありました。実は、2021年に言語文化学科学生3名が学生課に提出した提案書をもとに設置を検討していましたが、半導体不足の影響を受け工事が遅れていました。3月末までには設置見込です。
3	**ダイバーシティ推進のための企画や情報発信をスタート**	教職員への啓発活動に加え、学生対象のセミナーやトークイベント等を開催します。またX（旧ツイッター）を開設し、学内だけでなく他大学や各種団体のイベント情報、参考図書等の紹介を予定しています。

＊HPでの専用相談フォーム開設、専用相談員の配置については、引き続き検討いたします。